

新スポーツ推進計画の実効性を高めるために

○新たに策定したスポーツ推進計画を確実に実行し、スポーツ振興を図るには

1 総合計画(2018-2027)におけるスポーツ振興の位置づけ

1-4 学びあい、地域とつながる人を育むまち

(1) 現状における課題

【一人1スポーツの推進】

○これまでスポーツに関わってこなかった人に、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会に参画してもらうことが課題となっています。また、安全で快適な活動の場を提供するため、施設の適正な管理等が課題となっています。

区分\年度	H27	H28
市及び地区コミュニティ振興会主催スポーツ行事への参加者数(人)	35,180	36,180

(2) 今後の方向性と主な施策

○スポーツボランティアの人材育成や企業スポーツの支援等を通して、また、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録を契機に、「する」「みる」「ささえる」スポーツの参画人口の拡大を図ります。

- ・スポーツボランティアの育成と活動の推進
- ・各種スポーツイベント情報等の発信

○体育振興会や総合型地域スポーツクラブなどと連携しながら、すべての市民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツに親しみ、楽しめるスポーツ環境を提供し、健康増進を図ります。

- ・地域スポーツ活動への支援
- ・年齢や性別、障がいの有無に関わらず気軽にスポーツを楽しめる機会の提供

○ユニバーサルデザインに配慮した体育館等スポーツ施設の計画的な整備と適正な管理を進め、安全で快適なスポーツ環境を提供します。

- ・利用者のニーズに対応した施設の計画的な修繕、整備の実施

成果指標	スポーツ行事への参加者数	(2016)36,180人 ⇒ (2022)37,680人
------	--------------	-------------------------------

2 スポーツ推進計画(2019-2029)

(1) スポーツをとりまく現状と課題

本市では、運動を習慣にしている人としていない人の二極化が見られることから、市民がそれぞれのライフステージに応じて運動に取り組める環境の整備と、運動をしていない人への積極的な働きかけによって、延び続ける平均寿命と、健康寿命との差を縮めていく必要があります。

また、子どもに関しては、日常的な身体運動が減少し、体力が低下してきています。

このことを踏まえ、これまでスポーツに関わってこなかった人に、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会に参加してもらうことが重要となっています。

身体運動の増加、運動習慣の定着は、生活習慣病の予防や良質な睡眠、うつ病予防など心の健

康とも深い関わりがあり、各年代で気軽に取り組めるウォーキングやストレッチ、筋力トレーニング等の運動を、民間を含めた関係機関との連携のもと推進していく必要があります。

年齢や性別、障がいの有無に関係なく、市民誰でも気軽にスポーツを「する」「みる」「ささえる」活動を楽しむことで、心身の健康の保持増進と健康で活力に満ちた長寿社会の実現を目指します。

※アンケートによる市民の意見

○市民アンケート(対象者 1,000名、回答者 370名)

日頃、運動不足を感じている人の割合は約8割となっています。運動やスポーツが好きな人や関心がある人は6割を超えていますが、ほとんど運動をしない人が5割弱となっています。運動を行う動機付けとしては、「一緒に行く仲間がいればやりたい」や「気軽に参加できる教室等があればいきたい」などという意見が多くありました。

(2) 施策体系

【基本理念】

「する」「みる」「ささえる」～スポーツを楽しみ、健康で魅力あるまち酒田～

【基本目標】

【推進項目】

